

# 【体育科・6年・「ボール運動・ベースボール型（ティーボール）」①

## 育成を目指す資質・能力

1人1台のICT端末を活用し、守備のポイントを考え伝え合う活動を通して、相手の進塁を防ぐための作戦を工夫することができる。

## ICT活用のポイント

対話で学びを深める場面の作戦を立てる学習において、1人1台のICT端末を活用し、チームで画面を共有しながらゲームでの動き方を確認することで、課題点を把握しながら、どのように動けば良いのかを考え、話し合うことができる。

【本時のめあてをつかむ】

前時までの学習を振り返り、児童とともにめあてを設定する。

**相手の進塁を防ぐために、  
守備の作戦を工夫しよう**

【活動①（作戦の確認とタスクゲーム）】

前時の作戦の確認を行い、知識や技能を習得する活動を行う。

【活動②（メインゲームと作戦）】

作戦を考え、習得した知識や技能を活用する活動を行う。

【学習したことを振り返る】

めあてが達成できたかを体育ノートを使って振り返る。

## 事例の概要

- 前時に考えた作戦を一人一人がICT端末で確認し、どのように動くか良いのかを視覚的にイメージできるようにする。
- メインゲームを行い、ICT端末を活用して、動き方を画面上に書き込んだり、操作したりして考えさせることで、守備の作戦を立てることができるようにする。

## 事例におけるICT活用場面①

- アウトゾーンに全員が入らなければアウトにならないというルールの中で、前時に考えたチームでどのように動けば良いのかという作戦を、ICT端末上のコート図を利用して確認する。

## 事例におけるICT活用場面②

- 確認した作戦を使ってメインゲームを行い、その様子をICT端末で振り返ることで、相手の進塁を防ぐためには、チームでどのように動けばよいのかを考える。
- 一人一人がICT端末を利用し、守備位置やアウトにするときの動き方等を画面上に書き込んだり、操作したりしながら確認し、チームの仲間と協力しながら考え、話し合っ作戦を立てる。

# 【体育科・6年・「ボール運動・ベースボール型（ティーボール）」②】

## 【事例におけるICT活用場面①】



- めあてをつかむ過程では、これまでの学習を振り返りながらめあてを設定し、その後の追究する過程において、一人一人がICT端末を活用して前時の作戦を確認した。
- 4つのアウトゾーン全てに人が入り、ボールを留めることができればアウトになるので、自分の守備位置を確認し、状況に応じてどのように動けばよいのかをICT端末を活用してチームの仲間と確認することができた。
- キャプテンを中心に、野球をよく知らない友達にもICT端末を活用して動き方を伝える姿が見られた。

これまでの学習を振り返り、本時のめあてを設定した後、一人一人がICT端末を活用して前時の作戦を確認している。

## 【事例におけるICT活用場面②】



- 追究する過程において、確認した作戦を使ってメインゲームを行い、その様子をICT端末で振り返ることで、チームの課題を把握し、より早くアウトにできる作戦を考えることにつながっていた。
- 共同編集機能を利用し、画面上のコート図を共有しながら書き込んだり、操作したりして作戦を考え、それぞれの意見を出し合うことで、チームとしての動き方を決めることができていた。
- 一人一台のICT端末の活用により、一人一人が動きのイメージを共有することができ、生き生きとゲームに参加して楽しむことができた。

ICT端末の共同編集機能を活用して、どのように動けば良いのか（作戦）を考え、話し合っている。

### 【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト、共同編集機能、動画撮影